

こども未来会議

令和3年2月12日（金）

第3回 Web会議

こども未来会議（第3回）

＜委員＞（敬称略・五十音順） ◎座長

氏名	所属
◎ 秋田 喜代美	東京大学 大学院 教育学研究科長・教育学部長
新井 紀子	国立情報学研究所 教授・社会共有知研究センター長
安藤 哲也	NPO法人 ファザーリング・ジャパン 代表理事
大谷 美紀子	国連子どもの権利委員会 委員、弁護士
小林 よしひさ	タレント（NHK「おかあさんといっしょ」第11代目体操のお兄さん）

＜プレゼンター＞（敬称略・発表順）

森田 明美	東洋大学 社会学部 社会福祉学科 教授
松田 恵示	東京学芸大学 理事・副学長

本日のテーマ

■ 子供を育む環境・まちづくり

～子供の目線に立った居場所・遊び場～

本日の次第

- **小池東京都知事挨拶**
- **プレゼンターによる発表**
- **意見交換**
- **東京都からの報告事項**

「未来の東京」を考える授業



- 長期戦略の策定にあたり、「みんなでつくろう『未来の東京』」をテーマに都内の小・中学校15校で実施（参加児童生徒数：約2,200人）

子供シンポジウム 『ティーンズ・アクション TOKYO 2020』について

▶ 趣旨・目的等

「社会全体で全ての子供と子育て家庭を支援することのできる東京の実現」を目指し、**子供目線に立った政策**を展開するため、**中学生・高校生**が東京の子育て支援について、**グループで研究活動**を行い、**意見を発表**する「子供シンポジウム」を開催

【日時】 令和2年12月13日（日曜日）

【会場】 東京ウィメンズプラザ

▶ 発表者

5グループ・21名
(中学生7名、高校生14名)

※各グループに、東京学芸大こども未来研究所の学生スタッフを配置し、アドバイスを実施



※「子供シンポジウム」はとうきょう子育てスイッチYouTubeチャンネルでアーカイブ配信中

各グループの発表内容

◆グループ1：私たちと都政をつなぐイベントを企画しよう！

親子関係や子育てに関わる課題を起点として、児童虐待や子供食堂の実態を調査し、子供たちの声を届けるためのイベント「トドケル - 創ろう私たちの未来 -」を提案

◆グループ2：どんな“まち”なら親子でお出かけしたくなる？

お出かけを、①気軽なお出かけ（公園／ショッピングモール）、②特別感のあるお出かけ（アミューズメント施設）、③障害児や病児のお出かけ（障害児や病児とその家族のための住宅施設）、④快適なお出かけのための交通整備という4つの観点から考え、親子でお出かけしたくなる「理想のまち」について提案

◆グループ3：家庭生活と仕事の両立を実現できる社会とは？

子育てに関わる困りごとの相談窓口や子育て支援サービスについてのアンケート調査などを分析し、困りごとを抱える個人と行政をつなぐためには、「子供が声を上げやすい環境」をつくる必要があるのではないかと提案

◆グループ4：グローバルな時代、言語や文化の違いを理解し合おう！

国際交流は、地域のような小規模な単位で行うことが重要なのではないかという観点から、①いろいろな国の人気軽交流できる場所づくり、②異なる食文化を知ることができる定期的なイベントの開催、③日本語を母語としない子供や保護者交流のための環境・人的支援の必要性について提案

◆グループ5：放課後改造計画！どうすれば放課後がもっと楽しくなる？

「放課後」の現状についてのアンケート結果から、子供たちが「行きたい」と思えるような新たな居場所を提案

プレゼンテーション①

■ こどもの居場所

- コロナ禍と東日本大震災復興支援活動から
見えてきたこと

東洋大学社会学部社会福祉学科 教授

森田 明美 氏

プレゼンテーション②

- **遊びと、子育て・学びの楽しさに
充たされる社会の創造のために**

東京学芸大学 理事・副学長
松田 恵示 氏